

新年あけましておめでとうございます。2020年最初のWAYプロジェクトミーティングには市内から葛小中の松田先生、秋津小の岡田先生、運営協議会会長の仲川さん、そして大阪市立大の土屋先生にもご参加いただき、本校教員も含めた9名で開催いたしました。今回は、道德科の徳目22項目から「D-19【生命の尊さ】、D-20【自然愛護】、D-21【感動・畏敬の念】」の3つについて議論が繰り広げられました。

#### D-19【生命の尊さ】

生命の尊さについて、その有限性や連続性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

文言の中には、「生命の有限性や連続性」とあり、脈々と受け継がれてきた生命を自分で断つてはいけない、「死ぬな、自分の命を大切に」というメッセージが強くあるのではないだろうか。しかし、そもそも「生命の尊さ」を教えることなどできるのだろうか。

「生命とはなにか」を一人一人が「理解する」こと。

松浦先生からは、ブタを育てて最後に食べる教育の話がでた（実際に「ブタのいた教室」という映画も存在する）。自分たちの手で育てたブタのいのちを頂くにあたって、生徒たちがそのブタに対するいのちの尊さを考えるきっかけになる取り組みもあり、そのような方法での授業展開もひとつ考えられるのではないだろうか。

また本校特有の取り組みである、集中HRなどの取り組みから考えられないだろうか。1人の生き方からSD（ソクラティックダイアログ法）を用いて全員で哲学対話的に、生命の尊さを考え、たくさんの価値観に触れながら学んでいく方法も一つ良いのではないだろうか。

#### D-20【自然愛護】

自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。

「自然を大切にする」とはどういうことなのだろうか。例えば、タワーマンションに住む都会の生徒にはどのように教えるかも考えなければならない。

そもそも「環境を大切にする」「自然とともに生きる」ということはどういうことなのかを考える授業展開が必要である。

例として、現在環境保全活動家のグレッタさんを学びの例にするのも一つではないかとの意

見もあったが、例として挙げるには慎重になるべきとの声もあった。

D-21 【感動・畏敬の念】

美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。

そもそもすべての人の感動するポイントは違う。お互いの感動するポイントをバカにすることなどあってはならない。すがすがしい心とは何なのだろうか。討議の結果、「ためらいがない」「こだわりなく晴れ晴れとしている」ようすというまとめになった。

「すがすがしき」をもちながら、自分も周りも大切にすることを教えること。

Dは全体を通して関連がある。それぞれを個別にして考えるのではなく、関連づけながら授業展開もしていく必要がある。

次回からは、本格的に道徳科の授業づくりをしていく予定をしております。流れとしては、「授業づくり→検討→授業づくり→検討→・・・」のサイクルでWAY プロを進めていく予定です。

(文責：鶴田)